

「グローバル化、他校はどうしている？」全国の先進校・国内外大学が集結

第4回「グローバル校の経営戦略と実践事例」を2日間開催（後援：文部科学省）

－ 開催日：2026年9月12日（土）・13日（日） 会場：立命館 東京キャンパス －

日本の高校教育では、海外大学進学、英語教育、探究、総合型選抜、海外研修などを学校全体の特色としてどう設計するかが、経営と現場の双方にとって重要なテーマになっています。インターエデュの2026年「海外大学 合格者 高校別ランキング※」でも、広尾学園高等学校322名、三田国際科学学園高等学校170名など、海外大学合格者数が高い水準にある学校が見られ、海外進学を選択肢に含む学校教育への関心は引き続き高まっています。

こうした変化の中で、学校現場から聞かれるのは「他校は、実際にどうしているのか」という声です。海外大学進学を希望する生徒への支援、IELTS・TOEFLを活用した英語教育、奨学金、学校広報、海外研修、校内体制づくりなど、各校が独自に試行錯誤する一方、その実践知が学校を越えて共有される機会はまだまだ多くありません。



こうした背景を受け、2026年9月12日（土）・13日（日）の2日間、立命館 東京キャンパスにて、第4回「グローバル校の経営戦略と実践事例」を開催します。前回は全国各地から169名の教育関係者が参加。今回は初めて2日間構成へ拡大し、初日を「経営戦略編」、2日目を「実践事例編」として、学校経営から現場実装までを立体的に扱います。今年は5カ国から海外大学が直接参加し、参加高校との連携につながる交流の場を設けるほか、スポーツ留学や生徒募集をテーマにしたコンテンツも新設します。

主催は International Student Success Association（ISSA）。文部科学省の後援に加え、ブリティッシュ・カウンシル、TOEFLを運営するETS、トロント大学をはじめとする国内外の教育機関からも協力を得て実施します。また、企画・運営には三田国際科学学園、広尾学園、東葉高等学校、成立学園、東京農業大学第二高等学校、開智所沢中等教育学校などの現場教員も参画。主催者が一方的に「正解」を教えるセミナーではなく、学校同士が実践を持ち寄り、学び合うプラットフォームを目指しています。

【シンポジウムの3つの注目ポイント】

① 「経営」と「現場」を分けずに考える、初の2日間構成

9月12日（土）の「経営戦略編」は、学校経営者・理事長・校長、生徒募集・広報担当者を主な対象に、選ばれる学校の特色づくりとグローバル戦略を考えます。三田国際科学学園、広尾学園、東葉高等学校などの実践をもとに、学校改革、生徒募集、海外大学との接点、国内グローバル系大学が求める高校生像までを扱います。

9月13日（日）の「実践事例編」は、進路指導、英語教育、国際教育、探究などを担う現場教員が中心。分科会形式で、他校の実践から自校に持ち帰れる具体策を共有します。経営層が学校の方向性を考え、現場が実装方法を学ぶという、2日間を通じた構成が今年の特徴です。

② トロント大学、アイオワ州立大学、テンプル大学、UCSI大学、APUなど国内外の大学が参加

海外大学によるパネルディスカッションと、高校との提携・連携セッションを拡充します。University of Toronto, International Programs、Iowa State University、Temple University, Japan Campus、UCSI Universityなどが参加予定。日本の高校生をどのように見ているのか、求める英語力、進学条件、奨学金、特色あるプログラムなどを大学側が直接共有します。

国内大学からは立命館アジア太平洋大学（APU）などが登壇予定。海外大学進学に限定せず、国内外の大学が求める高校生像や、これからの国際人材教育について高校・大学双方の視点で議論します。

③ 現場教員がつくる「実践共有」の場。スポーツ留学も新テーマに

2日目の分科会では、進路・英語・留学・学校体制など、先生方が日々直面する課題をテーマに、各校の実践を共有します。今年は新たに「スポーツ留学」を追加。元MLBカンザスシティ・ロイヤルズの日本人選手専属通訳兼アスレティックトレーナーを務めた平林豊氏が、競技実績を海外大学進学や奨学金につなげるルートと支援方法を紹介します。

- | | |
|------------------|------------------------|
| ● 海外大学進学・進路指導 | ● IELTS／TOEFLを活用した英語教育 |
| ● 総合型選抜・探究・エッセイ | ● 奨学金・低コスト進学・大学選び |
| ● 海外研修を進路意識につなげる | ● 校内体制・教員研修・外部連携 |
| ● スポーツ留学・奨学金獲得 | ● 生徒募集・学校広報 |



前回の参加者交流・セッションの様子

主な登壇者（予定・順不同・敬称略）

鎌倉 好男 郁文館グローバル高等学校 校長	竹本 正二郎 Temple University, Japan Campus 国内学生募集戦略担当／副学長補佐
尾澤 章浩 広尾学園中学校高等学校 海外大学担当部長	生澤 高典 成立学園中学・高等学校 S-ACADEMICクラス責任者／IG推進（特命）
Nao Yamamoto University of Toronto, International Programs	Jorge Calderon Iowa State University, Director, International Student Enrollment
檜島 知哉 三田国際科学学園高等学校 副校長（国際教育責任者）	伊藤 健志 立命館アジア太平洋大学（APU）アドミッションズオフィス課長（東京）
西川 朋子 トビタテ！留学JAPAN マーケティングチームリーダー	平林 豊 元MLBカンザスシティ・ロイヤルズ 日本人選手専属通訳兼アスレティックトレーナー
安田 理 安田教育研究所 代表	大塚 庸平 UCSI University in Japan 代表／株式会社留学情報館 代表取締役

主催者コメント

「学校をグローバル化していくには、経営者が方向性を決めるだけでも、現場の先生が個人で頑張るだけでも続きません。他校の実践から学びながら、自校に合った形をつくる。そのために全国の先生方が試行錯誤して得た知見を持ち寄るプラットフォームにしたいと考えています。海外進学そのものを増やすことがゴールではなく、生徒が国内外を問わず、自分に合った進路を選べる学校文化を増やしていきたいです。」

ISSA（International Student Success Association） 事務局長 大塚 庸平

開催概要

イベント名	第4回「グローバル校の経営戦略と実践事例」
日時	2026年9月12日（土）13:00-18:00「経営戦略編」／9月13日（日）10:00-16:00「実践事例編」
会場	立命館 東京キャンパス・東京駅直結（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー8階）
対象	学校経営者、理事長、校長、進路指導、英語教育、国際教育、探究、生徒募集・広報等の学校関係者
定員	9月12日 先着50名／9月13日 先着100名（両日参加歓迎、1日のみの参加も可能）
主催／後援	International Student Success Association（ISSA）／文部科学省
詳細・参加登録	https://group.ryugaku-johokan.com/issa20260912/

出典・引用元

※インターエデュ社「2026年 海外大学 合格者 高校別ランキング 合格数順」 <https://www.inter-edu.com/univ/2026/jisseki/kaigai/ranking/>

ISSA事務局／運営 株式会社留学情報館 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目2-12 代表者：大塚庸平／長者原亜弓 https://www.ryugaku-johokan.com/	取材・写真素材のお問い合わせ 事務局：株式会社留学情報館 長者原 ayumi@ryugaku-johokan.com TEL：03-5332-7432 写真・データ等の素材もご提供可能です。
---	--